

初夏の長井葉山巡視

私たち朝日庄内森林生態系保全センターは、主に朝日山地森林生態系保護地域をフィールドとし、その豊かな自然を後世に残すための保全管理を業務としております。

今日は朝日連峰、南の一角、初夏の長井葉山を巡視してきましたので、その自然と歴史の一端をご紹介します。



白兔コースを登る



マイズルソウ

ヒメハルゼミが忙しくなく鳴く登山道(白兔コース)を息を切らせながら歩きました。途中、初夏、というよりは、まだ春の名残をとどめた花たちが疲れを和らげてくれました。



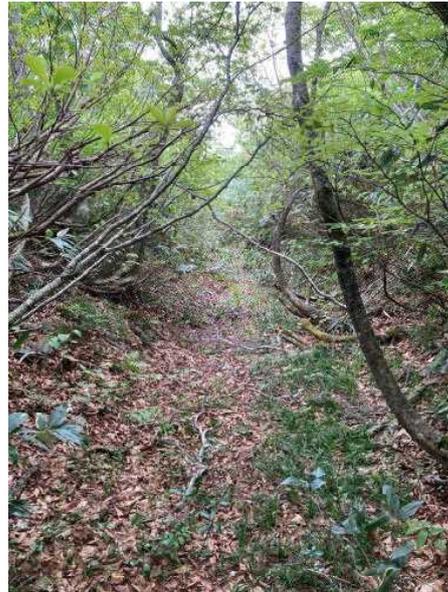
サラサドウダン



ギンリョウソウ



タムシバ



朝日軍道跡



頂上の湿原

豊臣秀吉の時代、上杉景勝は会津、佐渡、置賜、庄内など120万石を領しておりましたが、庄内地方とその他の領地の間には、上杉氏と敵対的な最上氏が領地を有しておりました。そのため、いざというときに備え、上杉景勝はこの長井葉山を起点に、庄内地方（鶴岡市鱒淵）まで険しい朝日山地の稜線に軍事道路（軍道）を開設しました。長井葉山では、その軍道跡を見ることができます。



勸進代コースから長井市方面を望む



勸進代登山口付近から山頂を拝す

東北森林管理局
朝日庄内森林生態系保全センター